

4-3 eラーニングによる教育支援の振興及び推進

大学教育の支援、大学教育と高校教育との連携、生涯学習に対する学習機会の提供を実現するため、高校生、大学生、社会人を対象にネットワーク上で双方向によるオープンな「学びの場」を提供するグランドデザインを年次計画で研究し、25年度までに事業化の構想をとりまとめるため、eラーニングオープン教育振興委員会において対応している。以下に検討状況を報告する。

本委員会では、22年7月、9月の2回、委員会を開催し、eラーニングによるオープン教育のイメージについて、理解の共有に努めた。

(1) 具体的なイメージの探求

事業の具体的なイメージとして、「学びの動機付け教育支援」、「人格陶冶の教育支援」、「創造性を高める教育支援」が意見として揚げられたが、事業の優先度及び納得性及び実現性を考慮し、当面、「学びの動機付け教育支援」に限定して検討することにした。

(2) eラーニングオープン教育による学びの動機付け教育支援

大学教育で学びの意義・重要性を理解できないことが教育での最大の課題になっている。「学ぶことにより何ができるようになるのか」、「学びで得た力を個人又は社会でどのように活用できるのか」、「学びを通じて社会や世界にどのように関与できるようになるのか」、について、大学教育における学びの必要性、専門分野での学びの重要性をネット上でわかりやすく説明する。その上で学習者からの反応を踏まえて、学びの意義について「気づき」を支援する学習フォーラムを形成し、オープンな学びの場を提供する。

(3) 動機付け教育の支援についての意見

- ① 動機づけでは大学は興味を示さないのではないか。
- ② 対象とすべき学習者のイメージが定まらない。
- ③ 動機づけのない学生を如何にさんかさせることができるか。
- ④ 就職に優位なものであれば、学生は興味を示す。

(4) インパクトのあるeラーニングオープン教育のイメージ

上記の議論を踏まえて、eラーニングオープン教育のイメージについて検討の結果、動機付け教育の支援については、ニーズが読み取れないことから検討の視点を見直すことにした。

新しい視点としては、世界に通用する学習機会の場をネットワーク上で提供できるようにするため、希望する高校生、大学生、社会人を対象にオープンな対話型eラーニングの仕組みを構想することになった。一人の教員が教える時代ではなく、世界中の学識ある人々から学べる時代にすべきで、そのための社会的仕組みを提案することで、再検討することになった。